

「民主的改革」を深めよう

中西理事長講演



労働省中堅をうめつくした失対打切反対集會(昭和45年)



事業団について、私の考えていること、組織的に議論してきたことをお話ししたいと思います。今日は、第一に、事業団とは何であるのか、なぜ必要なのか、なぜそのような

ものが生まれてきたのか、第二にどうすれば事業団活動はうまくいくのかという点についてお話しします。

「良い仕事をし、国民の要求と信頼にこたえる」

六月十二日、東京のやまで企業組合、城南クリエーション、北多摩サービス企業組合の三事業団と建設一般全日自労東京本部などの共催で、事業団の学習会が行われました。学習会では、事業団全国協議会の中西理事長(全日自労建設一般労働組合中央執行委員長)が、事業団の理念・目的と、原則について、四時間にわたって、熱のこもった講演を行い、参加者の感銘をよびました。本号では、この講演を、ほぼ全部紹介いたします。団員、事務局の学習に活用してもらおうと同時に、みなさんの意見や疑問をよせてもらい、事業団教科書の第一冊として完成していきたいと思っております。



発行所
中野区中野 4-1-1
事業団全国協議会
東京事務所
電話 03-3367-7100
東京事務所 03-3367-7100
東京事務所 03-3367-7100
東京事務所 03-3367-7100
東京事務所 03-3367-7100

- ### 事業団七つの原則
- 一、良い仕事をやり、地域住民、国民の要求と信頼にこたえる事業をこなし、
 - 二、民主、公正の原則を確立し、経営能力をたかめ、
 - 三、労働者の生活と権利の擁護をはかり、
 - 四、労働組合とは異なる重要な役割を認識し、組合活動を保障し、
 - 五、団員の教育、学習活動を推進し、
 - 六、地域の住居運動の発展と結合してとりこみます。全国的取組に力をおこして発展させます。
 - 七、

事業団 学習・討論版

に入ると、就職のようには思わぬ、なかなか出ない。これを彼らは溜息と言います。だから失対事業をつぶすんだ、というわけです。最終的には、自民党が国会の三分の二を占めるといふ数の力で、失対法を通じ、労働省の、失対打切り路線が、しかれることとなります。そのころの日本は高度経済成長期に入っていくところ

う手段にうったえます。それまでは、失業者であれば、失対事業に自由に入れた。職安へ行って申込みすれば、手帳をくれて、翌日からでも働けたわけです。この入口をじよじよに締め、昭和四十六年には完全に閉ざしてしまいます。それ以降、十二年間、失対事業には一人も入っておらず、いまでは、失対就労者は、七万人を切っているわけです。失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということ

たしかに、新卒の人たちが『金の卵』と呼ばれ、企業がうばい合うような状況が一方でありましたから、労働省の言うことが、いかにも本當の労働者、失対の入口を

それまでの、私たちの労働省とのわたり合いは、大動員やねばり強い交渉など、大衆行動が中心であった。まず政治を変えなければダメだという考え方が強かったわけです。大企業中心の体制、失業、貧困、戦争などを克服するためには、政治の変革が第一である……。

これに対して、私たち全日自労も、一ヶ月間国会を包囲し、演説を止めさせるような大闘争を展開しました。当時、全日自労は二十三万人の組合員がおり、総評の中にも二番目の組織でありました。今から思えば、みんな若かったし、私もまだ三十代でした。ものすごい馬力が、組織にあったわけです。

そのためには、仕事なんかしなくてもいいんだ。むしろ、労働者が仕事をなまけて、経済がどうしようもなくなるようにすることだ。——当時私はよく「騒然たる情勢をつくらう」という言葉をつかいました。

「民主的改革」の由来
失対打切り反対闘争
昭和三十一年、八年から、政府は、失業対策事業を打ち切ろうとしてきました。失対事業は能率が悪い。働かない。あるいは、失対事業

業なみのボーナスになっていきますが、それも、このような運動があったからです。しかし、政府・労働省は、私たちの弱点をついてきます。「失対」というのは、なまけ者なんだ。地域の人たちも「そうだ、そうだ」ということになるわけです。

失対打切り反対闘争
昭和三十一年、八年から、政府は、失業対策事業を打ち切ろうとしてきました。失対事業は能率が悪い。働かない。あるいは、失対事業

民に役立つ失対」をスローガンに、働く時間も、一日二時間から四時間に変えよう。そして、市民がやってほしい仕事を、こちらから積極的にこなしていこう、という提案をし、当時一つもなかった学校のプールづくりなどを、失対事業でやっていました。

